

第8回栃木活性化サロン テーマ「キャッシュレス時代の到来」 ～地域におけるキャッシュレス・ビジョン～

◇ 令和元年5月22日開催

◇ ゲストスピーカー 栃木県産業労働観光部 経営支援課長 野間 哲人氏

「栃木県におけるキャッシュレスの推進に向けて」

1. 栃木県の特徴

《産業構造について》

栃木県の県内総生産額は約9兆円で、首都圏に近接しているという立地から、多くの製造業の企業が県内に進出し、製造業が県内総生産額に占める割合は約4割(全国21.5%)。

一方、卸売業、小売業、サービス業も、合計で県内総生産額の3割以上を占めるが、製造業に比べて労働生産性は低い傾向。

《訪日外国人観光客（インバウンド）の増加》

日光などの観光地を中心に台湾、中国、アメリカといったキャッシュレスが進んでいるような国の観光客が年々増加傾向。

【平成29(2017)年】

○観光客入込数 9,276.8万人（前年より185万人増【対前年比102.0%】）(過去最高)

○観光客宿泊数 836.0万人（前年より24万人増【対前年比102.9%】）

○外国人宿泊数 22.2万人（前年より1.1万人増【対前年比105.5%】）(過去最高)

2. 栃木県内のキャッシュレス化推進に向けた取組み

《課題》

キャッシュレス決済対応店舗の割合26.6%(全国35位)、キャッシュレス決済の比率12.7%(全国27位)

クレジットカード・デビットカード・電子マネーは、店舗への導入のためのコスト負担が大きく、小規模店舗では加盟店手数料なども負担が大きい。

QRコード決済は、自前のスマホを利用できるなど相対的に導入コストが小さく導入しやすいと言われているが、新しい決済手法であり、2桁以上の決済事業者がある中で、どれを選べばいいのかなど心理的なハードル。

《栃木県の取組》

【とちぎ地域企業応援ネットワークの活用】

既に県や市町、商工団体や金融機関等の支援機関がそれぞれの役割を発揮し、連携しながら効果的に企業を支援していくための全県的な体制を構築。オールとちぎで企業の創業、成長、事業承継等、それぞれの段階における課題に即応した切れ目のない支援を推進。このネットワークを活用して県独自の推進体制を構築し、キャッシュレス決済の普及促進を図っていく。